

ごとばんさんの歌に写真と自分の言葉で返歌しよう。



ふるさとを

別れ路に生ふる葛の葉の

風はふけどもかへる世もなし

後鳥羽院

夢の途中

まだ

ふるさとへは

帰らない

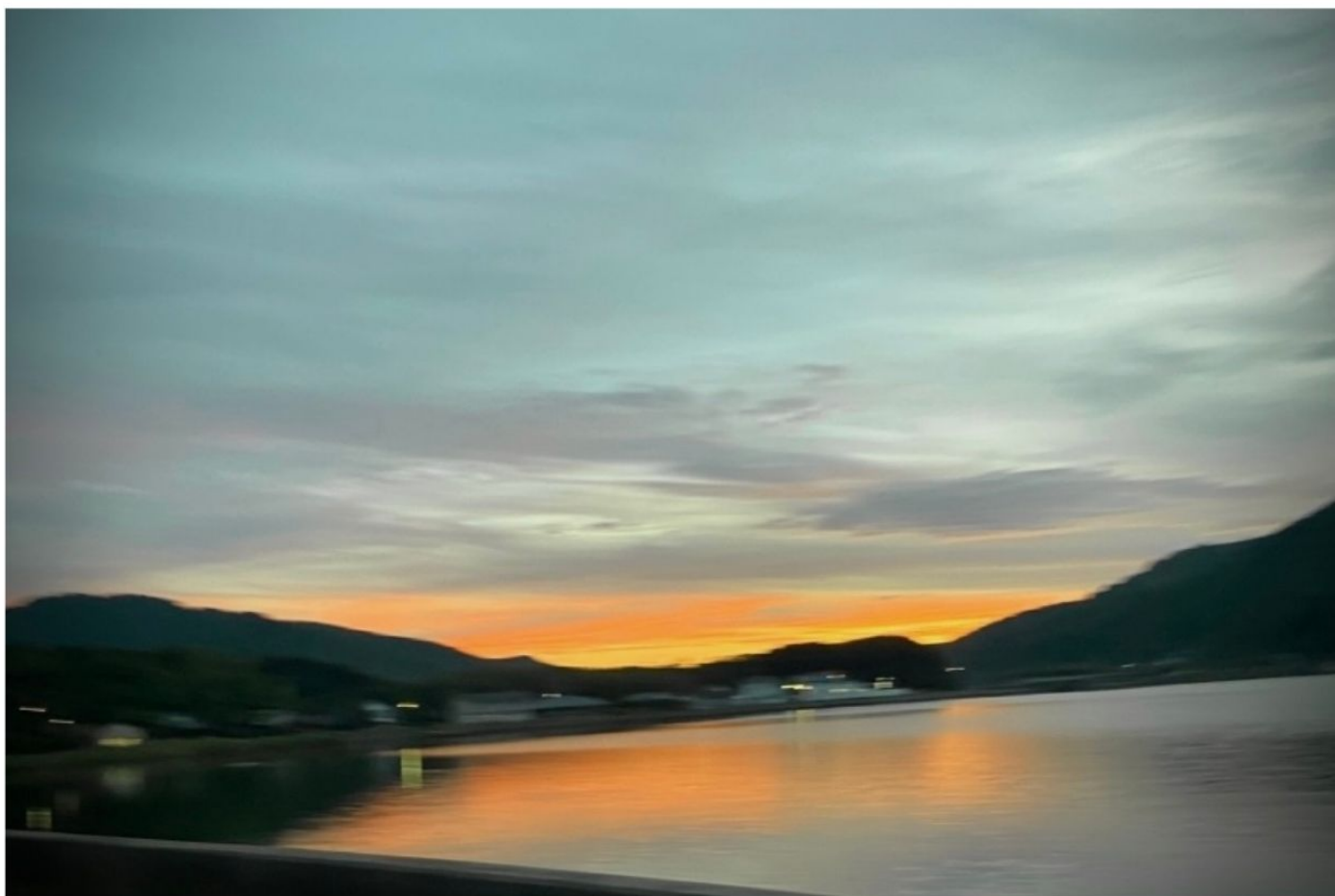
返歌の解説…仲間と別れてここに来た。こ
こは、簡単には帰りたくないと思える場所
ですよ。
(作者：14 番目の月)

思ひやれ真柴のとぼそ押し開けて
ひとり眺むるあきの夕べを

後鳥羽院

返歌の解説…あの頃はあんなに強そうだった
のにさびしいね。
(作者：Cass)

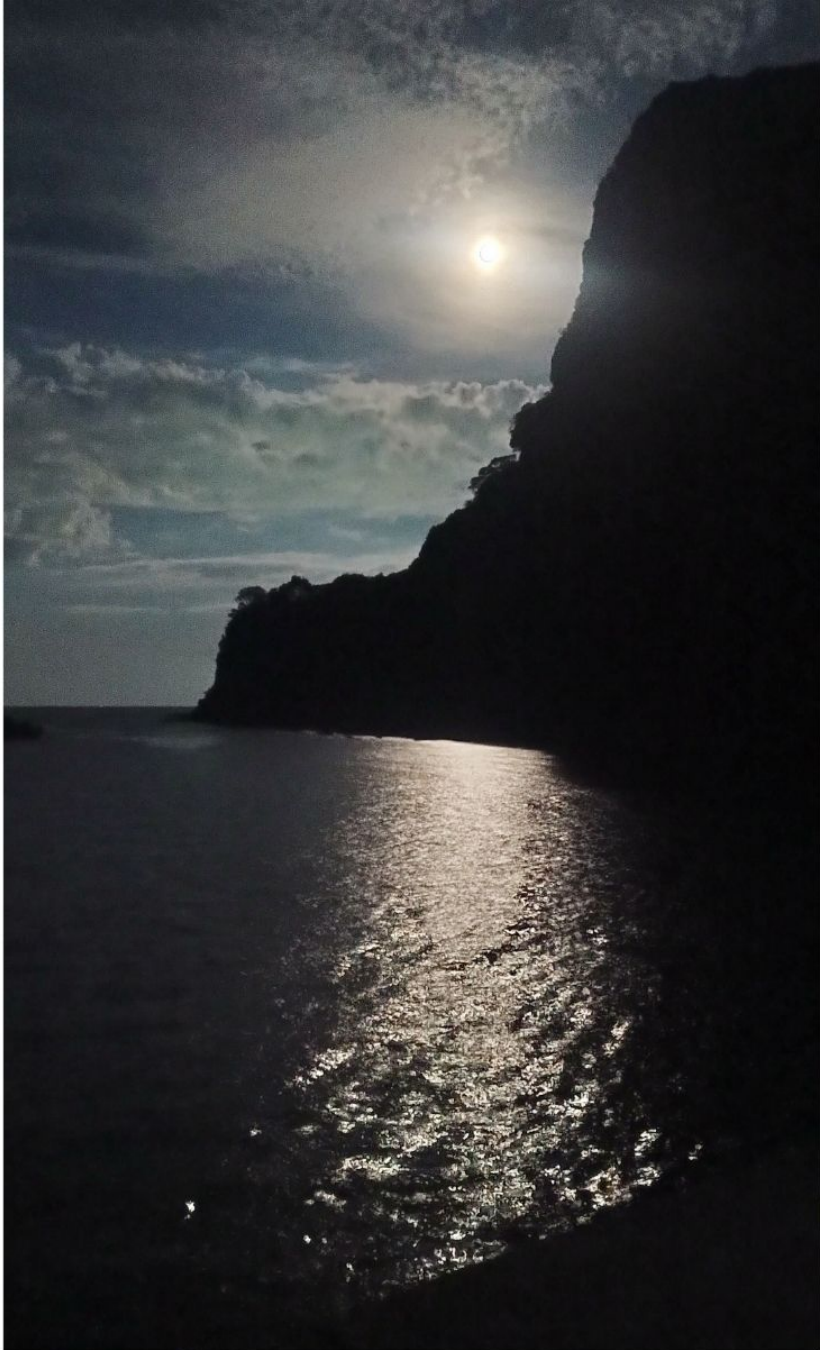
おもひやる
ながながし日に
ひとり見し
春のあけぼの
秋の夕暮



写真の解説…
ひとりで自転車に乗っていたらいい夕暮れだ
だったので撮りました。
(撮影…如月葉)

同じ世にまたすみの江の月や見む
今日こそよその隠岐の島守

後鳥羽院



返歌の解説…共に月を眺めた仲間が側におらず、寂しさが募るでしょうね。ただ私は、八百年前にことばんさんが見たのと同じ月を見てると思うと嬉しいです。時を超えて心を寄せてる人はたくさんいますよ。

(作者：JUNE)

すみの江の
月見上げれば
いくとせの
君と同じき
眺めぞうれし

写真の解説…

島の端の豊田からの月。山影が黒く陰るのは照らす月が明るいせいもありますよ。

(作者：梅竹)

同じ世にまたすみの江の月や見む
今日こそよその隠岐の島守

後鳥羽院

返歌の解説…共に月を眺めた仲間が側におらず、寂しさが募るでしょうね。ただ私は、八百年前にごとばんさんが見たのと同じ月を見てると思うと嬉しいです。時を超えて心を寄せてる人はたくさんいますよ。

(作者：JUNE)

すみの江の
月見上げれば
いくとせの
君と同じき
眺めぞうれし



写真の解説：

今日も島守、共に見る月。

(撮影：西ノ島町・maemae)

ごとばんさんの歌に写真と自分の言葉で返歌しよう。



とはるるも

嬉しくもなしこの海を

わたらぬ人の波のなさけは

後鳥羽院

嬉しやな

この海をわたらぬ

ローソク島の灯

ローソク島の灯は隠岐の島に渡った人だ
けがみることのできるもの 後鳥羽上皇
は京の都を恋しがったかもしれないが
住めば都。
(作者: oyaji3)

ごとばんさんの歌に写真と自分の言葉で返歌しよう。



**ぼくたちもこんな未来を
想像していなかったんです。**

返歌の解説：海士町に来た時にワインをするとは思って
いなかった。この島の人がこうして交わる様に未来はわ
からんし、期待を超えてきます。

(作者：あかり&じゅん)

限りあれば茅が軒端の月もみつ
しらぬは人の行く末の空

後鳥羽院

ごとばんさんの歌に写真と自分の言葉で返歌しよう。



おなじくは

きりの落葉もちりしくな

はらふひとなき秋のまがきに

後鳥羽院

ちりしくな

いやちりしけな

ちりしけな

ここまですしけば

ここもよろこぶ

返歌の解説…落ち葉は降り積もると掃除が大変。ただどここまで壮大に敷くなら、いっそのこともっともつと降り敷いて欲しい。子供がとつても喜んでる。
(作者…あーこ)

ことづつてむ都までもし誘はれば
あなしの風にまがふむらくも

後鳥羽院

返歌の解説…今の世の中で、誰かに何か言いてえ
ーって思うとき、空を眺める人ってそんなにいな
い気がします。スマホをみて、ストレートネック
になっている。ごとばんさんは健康的だよ！

(作者…きよ)

にーまるにーよん

二〇二四

ごとばん託すは青き画面
空見ることなく
ストレートネック



写真の解説…

指先から視線をあげて見た空を
青き画面に封じ込めたい

(撮影…みなみまい / 選定…梅竹)

とはるるも嬉しくもなしこの海を
渡らぬ人の浪のなさは

後鳥羽院

返歌の解説…今の世なら遠距離でも写真も動画も送れてつながれるけれど、会えないとわかつているとかえって悲しいこともあるかも。そんなときに届けたい写真ってどんなだろうと思いました。
(作者…たにさや)

この世から

時波わたり

写メ送信

かえって悲しみ

募るのかしら…



写真の解説…

後鳥羽院資料館の前からどこかへ 波を送信

(撮影…歌人有泉)

とはるるも嬉しくもなしこの海を
渡らぬ人の浪のなさは

後鳥羽院

返歌の解説…今の世なら遠距離でも写真も動画も送れてつながれるけれど、会えないとわかつているとかえって悲しいこともあるかも。そんなときに届けたい写真ってどんなだろうと思いました。

(作者…たにさや)

この世から
時波わたり
写メ送信
かえって悲しみ
募るのかしら…



写真の解説…
うっそうとおいしげる葛たちの中で、写メを送信する人と、振り返ると広がる海を対比させて撮りました。
(撮影…如月葉)

とはるるも嬉しくもなしこの海を
渡らぬ人の浪のなさは

後鳥羽院

この世から時波わたり写メ送信
かえって悲しみ募るのかしら…

たにさや

返歌の解説…「かなしみ」と「波」を元の歌からいただ
きました。メロウは、英単語のmellow。柔らかい、落
ち着いた等の意味があるそうです。かなしみもいつか、
穏やかなものになればいいと思いました。(作者…杏)

かなしみが
波にもまれる小石なら
島にメロウな歌
響かせて



写真の解説…夕暮れ時のさざ波に洗われるメロ
ウな時間が撮れました。(撮影…梅竹)

しほかぜにこゝろもいとゞみだれ
芦のほに出でゝ泣けど

とふ人もなし

後鳥羽院

返歌の解説…尋ねてくる人がいないというけど今ではみんなが潮風にのって後鳥羽上皇に会いに行きますよ。船が欠航する十月くらいまでには。
(作者…むらお)

しほかぜに
のってあなたに
会いにゆく
芦の穂が全て
散りゆくまでに



写真の解説…1年半住んでいて初めて訪れた場所ですが、眺めが良くて思わずシャッターを切りました。まだまだ知らない景色があるなあと思いました。

(撮影…如月葉)

しほかぜにこゝろもいとゞみだれ
芦のほに出でゝ泣けど

とふ人もなし

後鳥羽院

しおかぜに
のつてあなたに
会いにゆく
芦の穂が全て
散りゆくまでに

返歌の解説…尋ねてくる人がいないというけど今ではみんなが潮風にのつて後鳥羽上皇に会いに行きますよ。船が欠航する十月くらいまでには。

(作者…むらお)



写真の解説…会いに来たらいつかは帰っちゃうんだけど、船を見送るのもまた楽し

(撮影…みなみまい / 選定…梅竹)

しほかぜにこゝろもいとゞみだれ

芦のほに出でゝ泣けど

とふ人もなし

後鳥羽院



返歌の解説… 尋ねてくる人がいないというけど今ではみんなが潮風にのって後鳥羽上皇に会いに行きますよ。船が欠航する十月くらいまでには。

(作者：むらお)

しほかぜに

のってあなたに

会いにゆく

芦の穂が全て

散りゆくまで

写真の解説：
のんびりゆっくりだけれど、そっちに向かっていくから

(撮影：西ノ島野・maemae)

ごとばんさんの歌に写真と自分の言葉で返歌しよう。



しほかぜにこゝろもいとゞみだれ
芦のほに出でゝ泣けどとふ人もなし

後鳥羽院

小さな幸せを
感じることの
できる人に
なりたい。

返歌の解説…後鳥羽様は誰も来なくて悲しいと詠っていたけど、自分的には絶対にそんなことはないと思っているので身近な人の大切さやありがたみを分かる人になりたいです。
(作者…れもん)

夕立の晴れ行く空の雲間より
入日涼しき露の玉笹

後鳥羽院

返歌の解説…今年の東京は暑すぎて黄金色の揺れる稲穂を見ると心が震えるくらい秋が待ち遠しい気持ちです。
(作者…リチ女)

ギラギラと
焼けつく日々の
そのかなた
ごとばんさんは
金色の波



写真の解説…
隠岐も今年は暑かったあ。でも無事に稲穂が実り、季節は変わってきています。隠岐でとれた食材とおいしいお米を食べに来てください。

(撮影…米太郎)

夕立の晴れ行く空の雲間より
入日涼しき露の玉笹

後鳥羽院

返歌の解説…今年の東京は暑すぎて黄金色の揺れる稲穂を見ると心が震えるくらい秋が待ち遠しい気持ちです。
(作者…リチ女)

ギラギラと
焼けつく日々の
そのかなた
ごとばんさんは
金色の波



写真の解説…

後鳥羽院も見たかもしれない黄金の稲穂の海。治天ノ君Tシャツを着て見渡します。

(撮影…めんだこ 文…歌人有泉)

ごとばんさんの歌に写真と自分の言葉で返歌しよう。



同じ世にまた住之江の月やみん
今日こそよその隠岐の島守

後鳥羽院

あの日水無瀬で眺めた
月は海士の空照らす
八百年たつたら又
会いましょと
固い約束夢じゃない

返歌の解説…昭和三十九年の東京オリンピックの前年。
全国を風靡した国民的歌手三波春夫の「東京五輪首頭」。
作詞は宮田隆。海士町出身の方である。（作者…信也）

をきわびぬ きえなば消ねつゆの命
あらばあふよを待つとなけれど

後鳥羽院

返歌の解説…後鳥羽院の切ない心情をうけて、
それでも現実を生きていくために少しでも心が
軽くなるような歌を詠みました。

(作者…嫉妬林檎)

まだ消えぬ身ならば
せめてつめとともに
消えてくれぬか
仄青き憂い



写真の解説…
藍色の景色にともる灯に詠み手の気持ちを
重ねてみました。
(撮影…梅竹)

しほかぜにこゝろもいとゞみだれ
芦のほに出でゝ泣けどとふ人もなし

釣り舟の

ほにあげて君を思ひやり

みだれ芦をば

わけてこそとへ

隠岐島に流罪され、人に訪れられずに嘆きながら毎日を過ごしている後鳥羽院に同情の気持ちをお送りしてみます。
(作者：攝津)



ごとばんさんの歌に写真と自分の言葉で返歌しよう。



ふるさとを

別れ路に生ふる葛の葉の

風はふけどもかへる世もなし

後鳥羽院

むらさきの

葛よ照り映ゆ

つるは伸び

いつかときれし

縁もつなごう

返歌の解説…紫色に咲いた葛の花が日を受けて美しい。どこまでも伸びるようなつるは、一度切れた縁もつなぎなおしてくれるようだ。(作者…杏)

あはれなりたがつらとてか

初雁のねざめの床に涙そふらむ

後鳥羽院



返歌の解説…はつかりを呼ぶ声に呼応して
私はここよとかえました。

(作者：松田早苗)

はつかりの
名こそ懐かし
歌詠みて
ここに私が
いまも待つ床

写真の解説…

ここにいるね、全然待つよー、ここが好
きだから。

(撮影：西ノ島町・maemae)

限りあれば茅が軒端の月もみつ

しらぬは人の行く末の空

後鳥羽院

行く末は

誰れか白萩

露冴えて

茅が軒にも

澄める月影

返歌の解説…あなたでなくとも、行く末は誰が知
っているものだろうか、誰も知りはいらないよ。

(作者…梶間 和歌)



写真の解説…

先のこととはわからないけど、いつの世もど
んな月も、月はいいいよね。

(撮影…西ノ島町・maemae)

ふるさとを

わかれぢらにおふる葛の葉の

風はふけどもかへる世もなし

後鳥羽院

別れ路の 葛のうらみの秋風に かへるさとほき 隠岐の島守

返歌の解説…別れ路に生えた葛の葉が風に吹かれ、葉裏を見せる裏見―恨みの秋風に、葛の葉はひるがえるのに、都にかえる時は遙か遠い、
隠岐の島守よ。
(作者…梶間和歌)



写真の解説…
かたや、こちらは風が吹いてもうらまずかえず、じいっと在り続けるタイプの島守さんです。

(撮影…梅竹)

ふるさとを

わかれぢにおふる葛の葉の

風はふけどもかへる世もなし

後鳥羽院



別れ路の

葛のうらみの秋風に

かへるさとほき

隠岐の島守

返歌の解説：別れ路に生えた葛の葉が風に吹かれ、葉裏を見せる裏見―恨みの秋風に、葛の葉はひるがえるのに、都にかえる時は遥か遠い、隠岐の島守よ。
(作者：梶間和歌)

写真の解説：

島外の方もここに沢山いらして、地元の子どもたちと同じ空間でのんびりする姿がみられます。皆さんぜひ、島の図書館に来てませんか？

(撮影：海士町図書館館長)

とふ人もなき島守を
たづね来て
千鳥しば鳴く冬の芦原

返歌の解説…訪う人もない島守を訪ね来て千鳥のしば鳴く冬の芦原よ。千鳥は友千鳥ともいうが、八百年の世を経て島守、あなたのもとには大勢の友が訪ねて来ていますよ。
(作者…梶間和歌)

しほかぜにこゝろもいとぐみだれ
芦のほに出でゝ泣けど
とふ人もなし
後鳥羽院

写真の解説…隠岐島前高校・体育祭の伝統行事「火の集い」に一緒に参加しませんか。誰も喋らず、ただ火を眺める特別な時間です。
(撮影…さぶ)



思ひやれ真柴のとぼそ押し開けて
ひとり眺むるあきの夕べを

後鳥羽院

波ちかき

庭の真柴を眺むれば

そよやさゝめく

秋の夕風

返歌の解説…波の近く聞こえる家より庭に巡らした真柴垣をぼんやり眺めると、八百年前に新島守が「おもひやれ」と叫んだのに対して「そよや、そよそよ、そよそよ」とささめく秋の夕風よ。
(作者…梶間和歌)



写真の解説…
毎日、夕暮れ時に海際を愛犬と散歩しています。その時に吹かれる風も昔からの隠岐に吹いている風かな(撮影…さぶ)



秋さればいとど思いをましばかる
この里人も袖やつゆけき

後鳥羽院

今、語り継ぐ ごとばんの想い

返歌の解説…ごとばんさんの想いを島に生きる者としてこれからも学び伝えていきたい。

(作者…永海尚二)



とはるるも

嬉しくもなしこの海を

わたらぬ人の波のなさは

後鳥羽院

今、還流の 若人あふれ

返歌の解説…ごとばんさんのところに海を渡り来られる方もなかった昔。今は、求めて若人がこの島に集まっている。

(作者：永海尚二)

ごとばんさんの歌に写真と自分の言葉で返歌しよう。



限りあれば茅が軒端の月もみつ
しらぬは人の行く末の空

後鳥羽院

未来のことは
分からないけど、
上を向くことが
大事だよね

返歌の解説…ごとばんさんも私も、将来のこととは分からないけれど、彼岸花を見ていると上を向くことの大切さを感じました。

(作者…田中良篤)

ごとばんさんの歌に写真と自分の言葉で返歌しよう。



ふるさとを

別れ路に生ふる葛の葉の

風はふけどもかへる世もなし

後鳥羽院

ごとばんさん！

一緒に花見を

しませんか。

返歌の解説…ぼくは葛の葉を見て、嫌な気持ちになっ
ていることが、多々ありました。嫌だ嫌だと思っていたの
で、もっと嫌になっていました。ごとばんさんのこの歌
をみて、僕もごとばんさんと一緒に海土に腰をおちつけ
て、海土を楽しみ生きていこうと思えました。

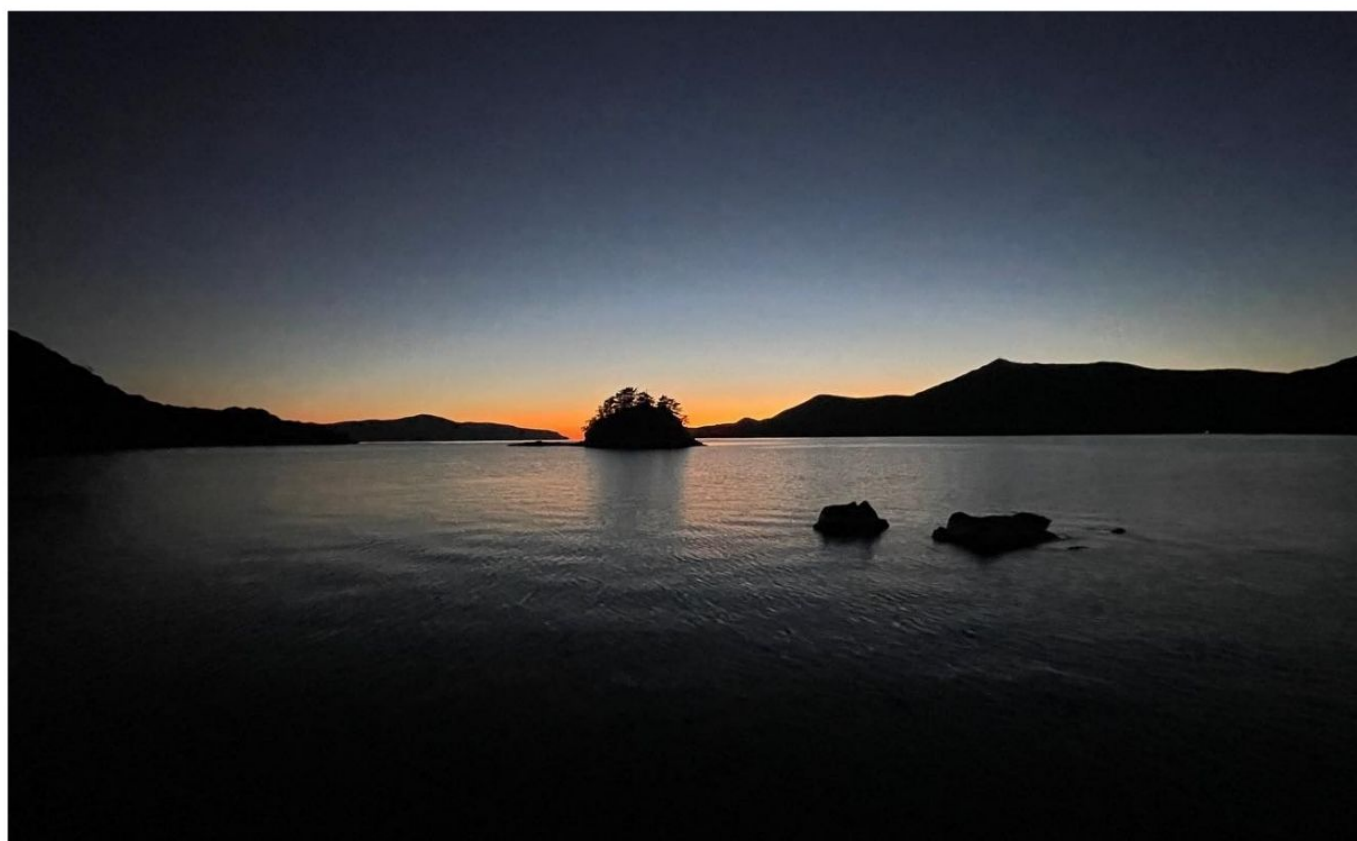
(作者：石川潤)

なにとなく昔かたりに袖ぬれて
ひとりぬる夜もつらきかねかな

後鳥羽院

あなた（ごとばんさん）が一人寝た夜は、私にとっては見ず知らぬ世の隠岐でありながら、やはり枕に涙の露を置きながらあはれに思ってしまう。そして、あなたという「つらきかね」も、澄んで聞こえてしまうように感じた。
(作者：空竹)

きみゆへに
みすしらぬよのおきなから
まくらのつゆに
すめるかねのね



写真の解説：

ひとり寝る夜に波のさざめく声を聞く
(撮影：みなみまい / 選定：梅竹)

なびかずばまたもや神にたのむべき
思へばかなしわかのうらなみ

後鳥羽院



その和歌を

神とたのみて

地の民は

あなたになびき

あなたを創る

歌の解説・院が自らの生の抛り所とされた和歌を読みわうことよって院に寄り添い、今回の島民劇ではごとばんさんを演じよう。
(作者・笹鹿岳志)

写真の解説・

後鳥羽院役に向き合う稽古中の返歌作者。愛とユーモアを感じる役作りでした。

(撮影・梅竹)

ごとばんさんの歌に写真と自分の言葉で返歌しよう。



おもいやれ

真柴のとぼそ押し開けて
ひとり眺むる秋の夕べを

後鳥羽院

それなら一緒に

眺めよう！

ウクレレも弾いて

歌って踊れば

秋の夕べも

楽しい夕べ

返歌の解説…夕方や夜ってひとりしているとどうしてもさ
みしくなってしまうけど、誰かと一緒に楽しめるとな
る。最近、夕べに友達と集まってウクレレ弾いて歌って
踊ったらとても楽しかったので、ごとばんさんも一緒に
やったらきっと楽しいと思った。
(作者…綾佳)

ふるさとを

わかれぢにおふる葛の葉の
風はふけどもかへる世もなし

後鳥羽院



返歌の解説…秋が来ると、後鳥羽院様とお別れた頃を思い出して、葛の葉を裏返す風が立つことでしょうか。お帰りになることをずっと待ち続けている風が。(作者…読人不知)

秋くれば

葛のつら葉に

立ちぬらむ

あるじわすれぬ

ふるさとへの風

写真の解説…【短歌】

紙テープにて見送りし白い船

しばしわたしの掌にあれ

(都に里帰り、行ってらっしゃい。島でも帰りを待っていますよ)

(撮影…歌人有泉)

数ふれば年の暮るるは知らるれど
雪かくほどの営みもなし

後鳥羽院

返歌の解説…隠岐で和歌や仏道に励まれた後鳥羽院様のご実績は素晴らしいので、その御営みよりも大変な隠岐の雪はどんなに高く積もるのかと、心配になります。
(作者…読人不知)

もしほ草
かく営みの高ければ
隠岐ふる雪ぞ
思ひやらるる



写真の解説…そう、寒いんです。
雪のひよこがこんなに営めるほどに。

(撮影…みなみまい/選定…梅竹)

夕すずみあしの葉みだれよる浪に
ほたる数そふ海人のいさり火

後鳥羽院

返歌の解説…後鳥羽院様がお住まいでいらつしやるのであれば、御所を守る衛士の炊く火の光だと見ましよう。岸の蛍も、海人の漁り火も、後鳥羽院様をお守りしているようです。

(作者…読人不知)

君すめば
衛士のたくひの
影とみむ
岸のほたるも
海人のいさりも

写真の解説…蛍は毎年生まれて光るし、ひとの暮らしも続いている。今ここにいないても、こうしてつながった。貴方も私も隠岐も蛍も。
(撮影…西ノ島町・naemae)

夕すずみあしの葉みだれよる浪に
ほたる数そふ海人のいさり火

後鳥羽院

君すめば

衛士のたくひの

影とみむ

岸のほたるも

海人のいさりも

返歌の解説…後鳥羽院様がお住まいでいらっしやるのであれば、御所を守る衛士の炊く火の光だと見ましよう。岸の蛍も、海人の漁り火も、後鳥羽院様をお守りしているようです。

(作者…読人不知)



写真の解説…夜だっても悲しいばかりじゃないでしょう。
(撮影…梅竹)

すみぞめの袖もあやなく匂ふかな
花ふきみだる春の夕かぜ

後鳥羽院

返歌の解説…染の喪に服さない花を咲かせる枝は
ありません。その如月、後鳥羽院様が崩じた二月
の風を悲しく思い出して。(作者…読人不知)

すみぞめに
匂はぬ花の枝はなし
そのきざさらぎの
風をうらみて



写真の解説…今では島民がごとばんさんの
劇を上演するため、ごとばんさんのもの
とに集っています！
花びらも、きつと、ごとばんさんの袖が
心地いいからそこに集うのでしょう。

(撮影…榊原有紀)

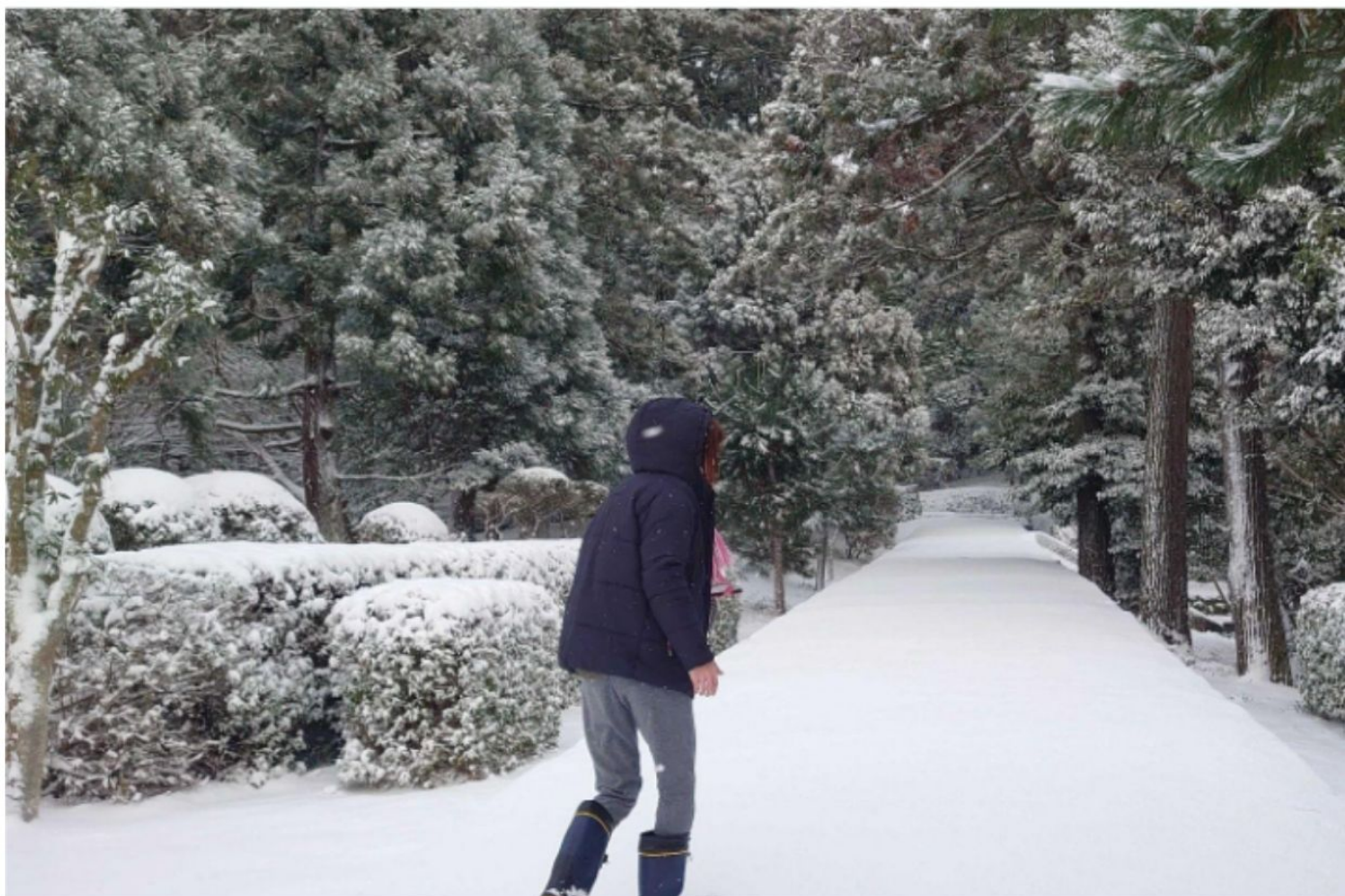
数ふれば年の暮るるは知らるれど
雪かくほどの営みもなし

後鳥羽院

もしほ草

かく営みの高ければ
隠岐ふる雪ぞ
思ひやらるる

返歌の解説：隠岐で和歌や仏道に励まれた後鳥羽院様のご実績は素晴らしいので、その御営みよりも大変な隠岐の雪はどんなに高く積もるのかと、心配になります。
(作者：読人不知)



写真の解説…

後鳥羽天皇行在所跡へ向かう雪道

(撮影：濱家くん)

ふるさとを

わかれぢにおふる葛の葉の

風はふけどもかへる世もなし

後鳥羽院

秋くれば

葛のうら葉に

立ちぬらむ

あるじわすれぬ

ふるわとの風

返歌の解説…秋が来ると、後鳥羽院様とお別れした頃を思い出して、葛の葉を裏返す風が立つことでしょう。お帰りになることをずっと待ち続けている風が。

(作者…読人不知)



写真の解説…
ぜひ隠岐に来てください。あなたのふるさとがひとつつふえることでしょう。

(撮影…米太郎)

ごとばんさんの歌に写真と自分の言葉で返歌しよう。



見るからにかたへすゞしきなつ衣

日もゆふ暮のやまとなでしこ

後鳥羽院

まだ終わらない夏

窓開け風を

求むれど

気づけばひやりと

秋の夕暮れ

返歌の解説…

例年なら夏が終わっている時期なのに

まだ暑さが残っているから

窓を開けて風を欲しがって過ごしてい

ても急に寒くなるのが秋の夕方だ

(作者…野津颯志)

思ひやれ真柴のとぼそ押し開けて
ひとり眺むるあきの夕べを

後鳥羽院

ふたりでも

三人いても

変わらない

季節の終わり

冷ややかな風

返歌の解説…一人眺む秋の夕べを嘆いて思いやれと詠まれましたが、夏が終わる今の時期というのは、一人でなくても物悲しいのではないのでしょうか。
(作者…長瀬麻衣)



写真の解説…
ふたりでも三人いても変わらないけれど、
ふたりいたら冷ややかな風も分け合えそ
うな牛たちです
(撮影…如月葉)

限りあれば茅が軒端の月もみつ

しらぬは人の行く末の空

後鳥羽院

返歌の解説… 限りある人の命と限らない自然を
対比させて、寂しかった後鳥羽上皇の歌のおか
げで集い楽しむ人々の様子を飛んでみました。
(作者… 青山タルト)

限りなき空海の下 カルタとる 遊びくる子と ごとばんさんごと



写真の解説…
限らない空と海の下、隠岐ではごとばんさん
の歌を使ってビーチかるた大会をしています！
(撮影… 田中良篤)

限りあれば茅が軒端の月もみつ

しらぬは人の行く末の空

後鳥羽院

限りなき空海の下カルタとる

遊びくる子と

ごとばんさんと

青山タルト

かるたとり

打ちつける手と賑わいを

金色世界の

はじまりとする

返歌の解説…カルタと一緒にできる人が
いるのは、幸せのひとつ (作者…杏)



写真の解説…
限りない空と海の下、隠岐ではごとばんさん
の歌を使ってビーチかるた大会をしています！
(撮影：田中良篤)